



承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第 1 号

令和 7 年 8 月 21 日

真庭市議会

議長 長尾 修 様

真庭市議会議員

吉原 啓介



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 大阪・関西万博会場内 イタリア館
(ウンブリア州週間)

3 内 容 イタリア・ウンブリア州の高校と真庭市内の高校との
交流継続に向けた対象地における国際交流活動推進体
制や情報発信活動の状況調査

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要



(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

行程表

令和7年9月4日	移動	7:06	岡山（※真庭→岡山市内は自家用車）	JR	
		7:55 8:04	新大阪	大阪メトロ	
		8:41	夢洲		
	大阪・関西万博会場	9:00～ 19:00	イタリア・ウンブリア州の高校と真庭市内の高校との交流継続に向けた対象地における国際交流活動推進体制や情報発信活動の状況調査		
	移動	19:36	夢洲	大阪メトロ	
		19:55 20:00	新大阪	JR	
		21:10	岡山（※岡山市内→真庭は自家用車）		
同行者	なし				

報 告 書

令和 7 年 9 月 5 日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 吉原 啓介



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

記

1. セミナー聴講：イタリア共和国ウンブリア州とペルージャ外国人大学

(1) 日時

令和 7 年 9 月 4 日（木） 14 時～18 時

(2) 場所

場 所：大阪・関西万博会場 イタリア館

2. 内容

【州の概要と今までの交流等】

- ウンブリア州はイタリアの中部に存し、国内で唯一の海に接していない州。州都はペルージャ、面積約 8,456 km²、人口約 90 万人。
- 同州のノチェラ・ウンブラの高校（シジスモンディ校等）は、現在、真庭高校・勝山高校とオンライン交流活動を行っており、2022 年、2024 年には留学生を短期ステイで受け入れている。今年も 10 月に 3 名の生徒が来日し、約 3 週間真庭市でホームステイし、真庭高校、勝山高校、勝山高校蒜山校地で授業や学校活動に参加するほか、市内のこども園、小学校、中学校を訪問し交流活動を行う予定。

(1) ウンブリア州の教育環境

- 州都ペルージャに総合大学であるペルージャ大学、外国人を受け入れるペルージャ外国人大学、のほか音楽大学やアカデミーがあり、学生の街となっている。また、南部テルニ県には専門学校もあり、行政とも連携した実学の間や機会も多い。

※参考：今秋の生徒派遣受け入れ

- 前記の市内高校との交流活動をコーディネートしてくれている東城健志氏はペルージャ外国人大学の日本語講師。ウンブリア州の高校では日本のサブカルチャー等への興味をきっかけに日本語を学びたいという意欲を

持っている生徒も多く、交流先であるシジスモンディ校では東城氏が定期的に日本語クラスを受け持っている。

- イタリアには、主にEU圏内を対象とした高校生の相互留学を支援するための奨学金制度（エラスムスプログラム）が充実しており、毎年多くの高校生がヨーロッパ内の国へ留学するほか、他国からの留学も受け入れている。アジア圏では日本が唯一の対象国であり、そのきっかけが現在行っている真庭市内の高校との交流。2022年のピアンカ・モリーニのトライアル留学の成果を受けて、昨年からは正式に派遣先として承認されている。
- 今秋の生徒派遣に際して初日に同行する[]氏は同奨学金団体の代表者。

(2) ペルージャ外国人大学の取り組み

- 同大学は、前述のとおり単なる語学習得のための学校ではなく、世界各地から集まる学生がイタリア語での学びと交流を通じて様々な活動に取り組んでいる。
- イタリア語学習の普及促進と国際交流推進はもちろんだが、豊かな自然が水環境を中心維持されていることを理解し、環境を守るための対策や情報発信をSDG（イタリアではSDGsではなくSDGと表記するらしい）活動として行っている。
- さらに小規模の都市、学生の街ならではの活動として、自治体と学生が協業した未来のまちづくりに向けた意見交換を行い、またその内容をポッドキャストで発信する等、活動の見える化を積極的に行っている。
- 中心となって番組制作、発信を行っているのはペルージャ外国人大学の学生で、メインの担当者の女子学生（20歳）が登壇して活動の説明を行っていたが、お仕着せの地域課題の話し合いではなく、自分たちの将来は自分たちで作っていかねばならない、そのために行政とどう向きあうか、という強い目的意識が感じられた。

2. 所感

今回は、ウンブリア州の高校と真庭市内高校との交流サポートを続けてきた立場として州政府からの招待でセミナー聴講したのだが、あらためて州や大学の取り組みを知れたことは大きな収穫だった。

自分たちが住む地域をどう維持していくのか、将来像はどうあるべきなのか、現在の豊かな自然環境をどう守っていくのか、といったことを行政主導や表面的な行動目標ではなく、学生等の若者が中心になって自治体・行政と向き合い、連携して次の世代にとって暮らしやすい地域を作って行こう、という姿勢に強く感銘を受けた。

セミナー後、[]氏、[]氏、[]氏にも挨拶・真庭市の取り組みも簡単に説明し、またあらためて話をさせていただけるよう依頼した。

以 上